

## 目的

○地域づくり人材の確保に向け、国がふるさと住民登録制度という仕組みを設けることを契機に、関係人口により地域が活性化した優良事例を学ぶとともに、地域づくりの担い手としての関係人口について考える

## 事業内容

### (1) 参集者

市町村、地域振興局、地域づくり支援団体、外部人材、地域住民

### (2) 内容（想定）

①基調講演（学識経験者を予定）

②ふるさと住民登録制度紹介（総務省）

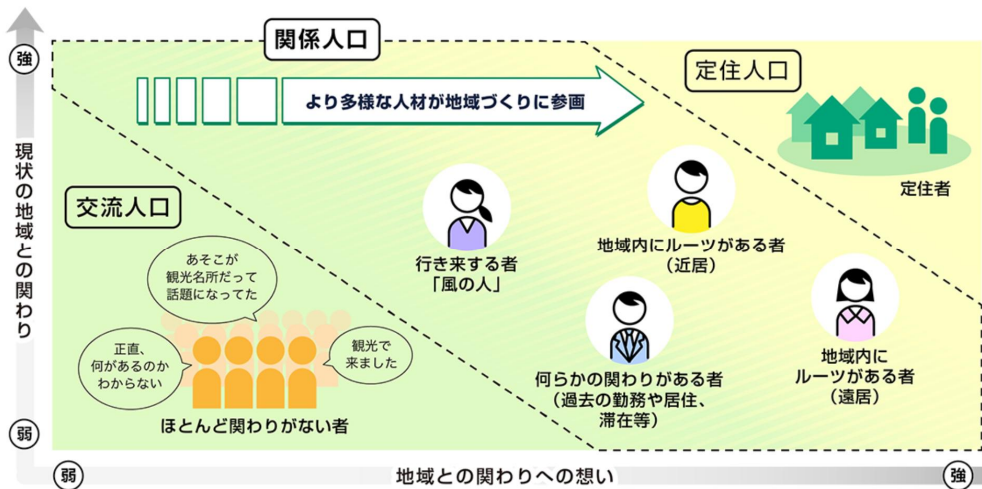
③事例紹介（発表者：市町村、地域づくり団体）

→ 関係人口が地域づくりに関わっている事例を複数紹介

④意見交換（地域づくりに有効な関係人口について（関係人口のターゲットや活動をどう設定したらよいか）【仮】）

### (3) 実施時期（予定）

7月～8月



### ④【ネオ山古志村（山古志DAO）】 -（旧）山古志村（新潟県）【2021～】

- <取組の概要>
- ・住民組織が中心となり、電子住民票「NishikigoiNFT」を発行。
  - ・デジタル関係人口を創出し、地域住民との双方間のウェルビーイングを促進。新たな自治のあり方へ共に挑んでいる。
- <主なターゲット>
- ・山古志地域のアイデンティティの共感者（国内外問わず）
  - ・震災以降、居住の有無に関わらず共に地域を繋いだ共感者
- <参加メリット>
- ・地域コミュニティへの参画、地域への多様な関わり
  - ・自らの能力、得意分野を生かした地域貢献
- <効果・影響>
- ・NFTを接点に世界中から知恵や資源、独自資金を調達
  - ・約700人の地域住民に対し、約1,800人のデジタル村民（国内7割：海外3割）
  - ・中越地震メモリアル行事や小中学校運動会の運営など、地域×デジタル村民の共創が本格化



### ⑥【ヒダスケ！】- 飛騨市（岐阜県）【2020～】

- <取組の概要>
- ・市民の困りごとをプログラム化し、お手伝いしたい人とWEB上でマッチング
  - （飛騨に心を寄せるファンが登録可能な「飛騨市ファンクラブ」会員からの地域の手伝いをしたいという要望から開始）
- <主なターゲット>
- ・飛騨市の地域のお手伝いをしたい人
- <参加メリット>
- ・農作業、お祭りなど、楽しみながら地域の課題解決・発展に貢献
- <効果・影響>
- ・年間1500人が参加
  - ・地域課題を交流資源とし、新たな関係人口創出に寄与

